

令和四年二月吉日初版作成

宇宙の根源のあり方を理解し

意識を高める

高嶋善三郎

目次

- 宇宙子科学により解明された生命の根源・・・・・・・・・・ 3
- 大宇宙のすべての根源 宇宙神・・・・・・・・・・ 3
- 宇宙創造を決定する中心的役割を担うもの・・・・・・・・ 4
- 森羅万象を決定する宇宙子の構成される時の三要素・・ 5
- 一番始めに生まれた生命の元の宇宙子・・・・・・・・・・ 5
- 人間としての霊系統である中心核の誕生・・・・・・・・・・ 5
- 精神宇宙子と物質宇宙子の誕生・・・・・・・・・・ 6
- 肉体人間の誕生・・・・・・・・・・ 7

- 大宇宙神を中心に無限に広がる田舎のミッド・・・・・・・・ 7
- 宇宙神の分身としての意識を自覚する・・・・・・・・・・ 8
- 神聖のエネルギーの共鳴現象をつくる・・・・・・・・・・ 9
- 宇宙子の誕生と流れのイメージ図・対照図・・・・・・・・ 10

お願い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブサイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。
より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。

次の連絡先にお問い合わせ致します。

（携帯） 090-3346-6619

（Eメールアドレス） zensan@peach.ocn.ne.jp

宇宙子科学による解明された生命の根源

宇宙子科学をはじめた経緯について、今から六十年前に五井先生は次のように言及されています。

「神を信じないものは救われない、というのは実におかしなことだ、信じずるも信じないも、誰人たりとも一人として救い落とすことのないのが、神の大愛でなければならぬ、と考え、自分が新しい宗教団体を開いたとき、その根本は、何処の宗教団体よりも、入り易く行い易い、日常生活そのまま、何の戒律もその人の自由を縛る何もの何事もない、易行道であった。それが守護の神霊への感謝行と消えてゆく姿の教えだったのである。そして後に、消えてゆく姿で世界平和の祈りという、個人人類同時成道の祈りに進展してきたわけである。そしてこの世界平和の祈りを多くの同志とともに祈り続けた結果、光明波動が宇宙の他の星々との間に道を開き、今日では遂に宇宙の他の星の人類、地球人類が宇宙人と呼んでいる人々との交流に成功し、地球科学ではどうしても探り得ない、宇宙根源のあり方を、はっきり自己のものとし、その科学力を、地球人類の完全平和達成のために自由に使い得る道を、彼らの指導

の下に、地球人類のものにしようとしているのである。これを宇宙子科学と呼んでいる」と。(白光誌1963年11月号4ページ)

私たちは、これまで宇宙子科学により解明された宇宙の生命の根源のあり方をみてみましょう。

大宇宙のすべての根源 宇宙神

宇宙子科学の研究成果の公表されているものについて、宇宙子科学資料集『宇宙子科学とは』(相原誠二郎講師編集作成)に詳細に掲載されていますが、その中で主要な箇所の概要について整理してみましょう。

●天地に先立って、大宇宙のすべての根源である宇宙神が存在する。この大宇宙神のみ心に相当する宇宙心がある。大宇宙神のみ心の根源である。宇宙心から宇宙子が生まれ出で大宇宙すべての存在に無限に放射され続けられている。大宇宙神と宇宙心は無限なる存在として数霊に表すとOである。また私たちの肉眼で見える宇宙と肉眼で見えない宇宙や神界・霊界・幽界があるが、そうした大宇宙の無限なるすべてを司っているものを宇宙心と呼んでいる。宇宙心より生まれ出でた宇宙子はやがて

宇宙子核となって、大宇宙の法則に従い、融合、分離の過程を何度も繰り返しつつ、悠久無限と続く、大宇宙の大調和と大進化、創造をなし続けてゆへ。この宇宙子は大宇宙神のみ心のまま大調和世界を創造するために、大宇宙より放出されてくる、神のみ心の最も微妙なひびきである。

宇宙創造を決定する中心的役割を担うもの

ここで、宇宙根源の宇宙子が私たちのところに流れてくる様子を見る前に、宇宙子が従う大宇宙の法則二つを整理しておきましょう。

●宇宙の生成にもなつて、重要な働きを担っているものに、数霊、音霊、型霊の三つがある。宇宙核と中心核の生成に伴い、宇宙子が1—3—5—7となって動くわけであるが、これは生成にもなつて数霊が生じたのではなく、逆に数霊に従って宇宙核は生成されたということである。数霊は宇宙創造を決定する中心的役割を担っているのである。宇宙子がなければ、大宇宙は消えてなくなってしまうように、数霊の働きがなければ、宇宙子は働きようがなく、無秩序で混沌としたままなのである。数霊はいわば働きの司令塔のようなものである。またこの数霊と同じように、宇宙の生成化育に重要な働きをなすものに音霊がある。音霊

とは、宇宙子の光波動、言い換えれば神の意志のひびきである。そのひびきがおとずれることが「音」という文字になっている。つまり「音」とは神のおとずれとして「聖なる徴」(しるし)を意味する。新約聖書、ヨハネ伝福音書第一章に「大初」(はじめ)に言(ことば)「あり、言は神とともに在り、万(よろず)のものこれに由りて成り、成りたるもの一つとして之(これ)によらないで成りたるはなし」というように、音には創造力そのものの神力がある。また旧約聖書創世記第一章に有名なことばがある。「神光あれと言ひければ光ありき」というように、大宇宙神の心に「光あれ」と、光明波動がひびくと、光明波動が生まれるわけである。そのことから、宇宙子はひびきそのものであることがうなずける。また数霊、音霊と同様に、宇宙の生成に重要な働きをしているものに型霊がある。型で表すと○△□である。宇宙子科学によれば宇宙子の働きは「数」「場」「角度」の三要素によって決定されていると云われている。このうち型霊は、「角度」を決定する、中心的な働きをなしていると考えられ、宇宙は基本的には○△□で出来ていると云われている。宇宙子が働く場合は光波動として型は亀甲型となって働く。宇宙核が1—3—5—7と生成してゆへとき、○—△—□と働き、中心核で宇宙子の型は亀甲型○となる。この亀甲型○は、すべてを生成している

宇宙子の基本型となっている。

森羅万象を決定する宇宙子の構成される時の三要素

もう一つは、森羅万象を決定する宇宙子そのものに関するものです。

●森羅万象のすべては、宇宙子が構成される時の数と場と角度の三要素によって決定されてゆく。また数と場と角度の変化によってこの肉体人間の細胞組織をまるっきりの霊細胞に変えることができるのである。角度には、前項でも言及したとおり○△□の型霊が大きく関わっている。そうしたことを解明するために、宇宙子科学では数学を用いて円を線にする計算、角度を線にする計算、逆に線を角度にする変換にする計算がある。これらは宇宙子科学独特の計算方法で地球の数学とは異なる。円は無限の角度を含んでいて、初めは全て円から始まる。宇宙子科学の場合にはあらゆるものを初め円にするのである。その円を宇宙子科学の計算科学の計算式で、三角や四角また様々の多角形に変換することによって無から有を生むのである。宇宙子科学は宇宙創造の原理そのものである。

一番始めに生まれた生命の元の宇宙子

では、宇宙子の流れる様子を四つ段階に分けてみてみましょう

●**第一の働きの場**—宇宙子のこの段階の働きとして宇宙核という場が生まれる。宇宙核から、一番始めに生まれて出でた生命の元の宇宙子●(金)は、宇宙核の中心点を最初の通過点とし、そのあと、精神の元の宇宙子●(青)と物質の元の宇宙子●(赤)を生成する。この時の数霊の働きは3の働きである。さらに数霊5の働きで、宇宙核は5つの働きの場に移る。こうして宇宙子の第一段階の働きとしての宇宙核は、1—3—5と生成して調い、この5つが「五井一体」(●●●●●)(金・青・赤・桃・緑)となって、その後の天地創造の準備が完了する。この5つは天の真井(まない)といって天の中心の場で、生命・愛・叡智が沸き上がって来るところである。老子が説くところの奥処の空に相当する無極という場である。宇宙核のなかでもこの5つの場は特に大いなる働きをなしていて、重要な場所である。宇宙核は数霊の5が働いて天地創造の準備が調うわけである。すべてが調い、次に宇宙子は第二の働きの場である7つの中心核へ移る。

人間としての霊系統である中心核の誕生

●**第二の働きの場**—宇宙核の5神が一体となって、いよいよ人となる存在、人間としての霊系統である中心核がここで誕生する。中心核の数は7である。この7つの中心核は宗教でいう7柱の直霊（●●●●●●●）金・青・赤・緑・桃・紫・橙）に相当する。7は大調和、大完成を意味する。数霊が1—3—5—7と働くことで、いよいよ天地創造の具象化が完成に導かれることを意味する。この場合の7神は宇宙核の5神が次の次元に下がって、そのまま神の中に現われ、5神に2神が加わるというわけである。この場合の2神は宇宙核で生まれた5神とは働きを異にする直霊となる。またこの7つの中心核、直霊（七色）がすべての分霊

の個性の源泉となっている。この7神（七色）の配色比率によって、無限なる個性が人類に生まれるのである。中心核である7柱の直霊を五井先生は私たち人間の本心または本体といっている。重要な点はこうした宇宙子の流れには常に金色●の宇宙子がその働きの中心にあるということである。この金色●の宇宙子は生命そのもので、宇宙核に最初に現われて、宇宙子の流れのどの次元にも同時に示現してどこまでも存在している。大生命の根源の光明波動で私たちの生命としてどこまでも存在している。大生命の根源の光明波動で私たちの生命として働き続けている。

るのである。人間はこの光明波動をひびかせている存在なのである。人間神の子というのはこういう内なる光明波動をさして云うのである。

●**第三の働きの場**—交流点1で、7つの宇宙子は交流融合して49の宇宙子が生まれるのである。宇宙子核は7つことに一つのグループとなって集合する。そして計7つの大拠点をつくる。その大拠点で互いに交流し影響し合う。宇宙子の流れは緩慢な波動の宇宙子に微妙な宇宙子が重なって次の場に移ってゆく。

精神宇宙子と物質宇宙子の誕生

●**第四の働きの場**—大拠点で交流した49の宇宙子が交流点2を通して、次の場（第4の働きの場）へと移ると、いよいよ精神宇宙子と物質宇宙子が誕生する。この精神宇宙子と物質宇宙子の組み合わせによって宇宙子価と呼ばれるものが誕生する。また精神宇宙子と物質宇宙子にはそれぞれプラスとマイナスがあり、プラスは活動している宇宙子と呼び、マイナスは静止している宇宙子と呼ばれている。そのプラスの宇宙子とマイナスの結合や分離の仕方によって、無限に色々なものが生成される。例えば宇宙子の結合比率が「プラス6＋マイナス1」で完全な精神宇宙

子の基本原型が生成され、「プラス1マイナス6」で完全な物質宇宙の基本原型が生まれる。こうした宇宙子の組み合わせ方によって、人間生命として現れたり、鉱物生命として現れたり、植物生命として現れたりするのである。いかなる物質の生命波動の現れでないものはない。ただそこには精神要素が多いか少ないかの相違があるだけである。

肉体人間の誕生

●宇宙子価を詳しく述べるに宇宙子価の結合の仕方には66種類あり、それぞれに名称はついている。例えばキルボシルキ、ニラニン、ヤラクリンサン、等々、また系列で分けると、結集系列、運動系列、生氣系列、無散系列、動力系列、足理系列、働力系列など49列がある。この宇宙子価は地球科学の元素記号や原子量に相当するものであるが、例えば、同じ炭素でも宇宙科学で「1」ではなく、本当は7種に分かれていて、炭素Aとか炭素Bとかいうようになる。頭脳で働いている炭素と足の細胞に働いている炭素とは違ったり、骨の細胞、肺の細胞、腸の細胞に働く炭素はみな違うのである。さらに、肉体細胞だけでなく、現在地球科学では知られていない精神細胞もあって、それらを生みだすのがこの宇宙子

価なのである。この宇宙子価によってさまざまな波動となり、宇宙の運行ともなり、鉱物や植物や人類と発展してゆくわけなのである。物質も精神もすべてこの宇宙子価によるものである。森羅万象のすべてが宇宙子価の現れなのである。

●人の生命は宇宙核からそのまま出ているのであるが、人間の原型は第八の働き場になって創られるというのである。この場というのは動物の原型ができる段階である。その原型に霊そのものである純粋な精神が入って霊止(ひと)は初めて動物の身体をまとい、肉体人間となるのである。そして再び生命の根源である宇宙核に還元して、神の子人間、精神と物質、縦横十字交差した調和した人になる。これが人間の道、コースであると、宇宙子科学では云っている。

大宇宙神を中心に無限に広がる円錐ピラミッド

宇宙は大宇宙神を中心に無限に広がる円錐ピラミッドである。全ての宇宙子が働きを開始する根源の世界—宇宙核の最初の宇宙子は天之御中主神、次に3つの宇宙子は、造化三神。そして宇宙核の5つの宇宙子は別天神五柱。中心核の7宇宙子は独神七柱(直霊)とも言われている。

神道（古事記）では、次のように各神の名が表記されている。

造化三神—天之御中主神 ●、高御産日神 ●、神産巢日神 ●

别天神五柱—天之御中主神 ●、高御産日神 ●、神産巢日神 ●、

宇麻斯阿斯訶備比古遲神 ●、天之常立神 ●

独神七柱—天之御中主神 ●、高御産日神 ●、神産巢日神 ●、宇麻斯阿斯

訶備比古遲神 ●、天之常立神 ●、国之常立神 ●、豊雲野神 ●

これら神々は、古事記に「成りませる神」「身を隠したまひき」と表現されているように具象として現れる以前の神々であり、五柱は一般の天神とは別格の天神（アマツカミ）であるといわれている。

宇宙は、円錐（円錐）の中に別の円錐（円錐）ができて、その中にまた別の円錐（円錐）が出来てゆくと考えられる。

宇宙神の分身としての意識を自覚する

以上宇宙の根源のあり方から理解できることは、私たちが、神の子人間、精神と物質、縦横十字交差した調和した人になるには、常に流れてきている新しい精神宇宙子を意識的に受け入れることが大切であるということです。次のように五井先生は解説されています。

「鉱物は無生物である。精神的なものが何も無いように感じられる。しかし鉱物のなかにも精神宇宙子が入っているのである。全然鉱物が感じないわけではないのである。だから石がものを思つとよくいわれる。ただ、精神宇宙子が多くなくて、物質宇宙子が多いわけである。この肉体人間の中にも、物質宇宙子が多く、精神宇宙子の少ない人がいる。そういう人が唯物論者になっている。その代わり物質宇宙子がバラバラになって解体してしまつと、精神宇宙子が少ないからあの世にいつて ぶらぶらと正体のないナマコのようになって皆さん苦しみを嘗めなければならぬ。そういう経験をして悟っていくわけである。

それでああ神様はあるんだな、と神様！と精神宇宙子と物質宇宙子の出口である宇宙核のほうに常に心を向けておくことが大事なのである。

（中略）

物質体にはかりくっついてしまつて、宇宙核、宇宙神に心を向けない。精神宇宙子が常に常に流れているのだけれど、最初に入った自分の古い宇宙子だけのいわば蓄電池（物質の方も古くなるけど）使おうとするから、結論的には精神宇宙子がどんどん減つてしまふ。だからだんだん欲張りになってしまふ。よくおばあさんで「うちの嫁はご飯を食べさせないのです」「いえ食べませんよ」なんてみんなにいつけて歩く人がい

ますね。食べても食べてもまだ食べたい、というのは愛情が欲しい、ということである。愛情というのは精神的なものである。愛情がほしい、愛されたい愛されたいというのは、精神宇宙子が足りないから、愛されている感じがしていないわけである。

ところが神様有難うございますと年中神様に心が向いている、つまり祈っていることは、宇宙核に自分の想いの波長をあわせていることなのである。宇宙核からは常に宇宙子が流れているので、溜まっている古い精神宇宙子はどんどん減っていくと同時に、新しい精神宇宙子が絶え間なく補われていくのである。それ故常に新陳代謝して、頭がいつも精神的にさわやかに、精神要素が充満しているわけである。そうすると何時も明るいき、しかも人のために尽くさなければならぬというふうになっていくのである。「」(白光誌1993年6月号14ページ)

神聖のエネルギーの共鳴現象をつくる

昌美先生は、白光誌2021年10月号9ページにおいて、宇宙子科学の最終的な部分であり、我々の最後のミッションは、神聖のエネルギーの共鳴現象をつくることだと言われています。

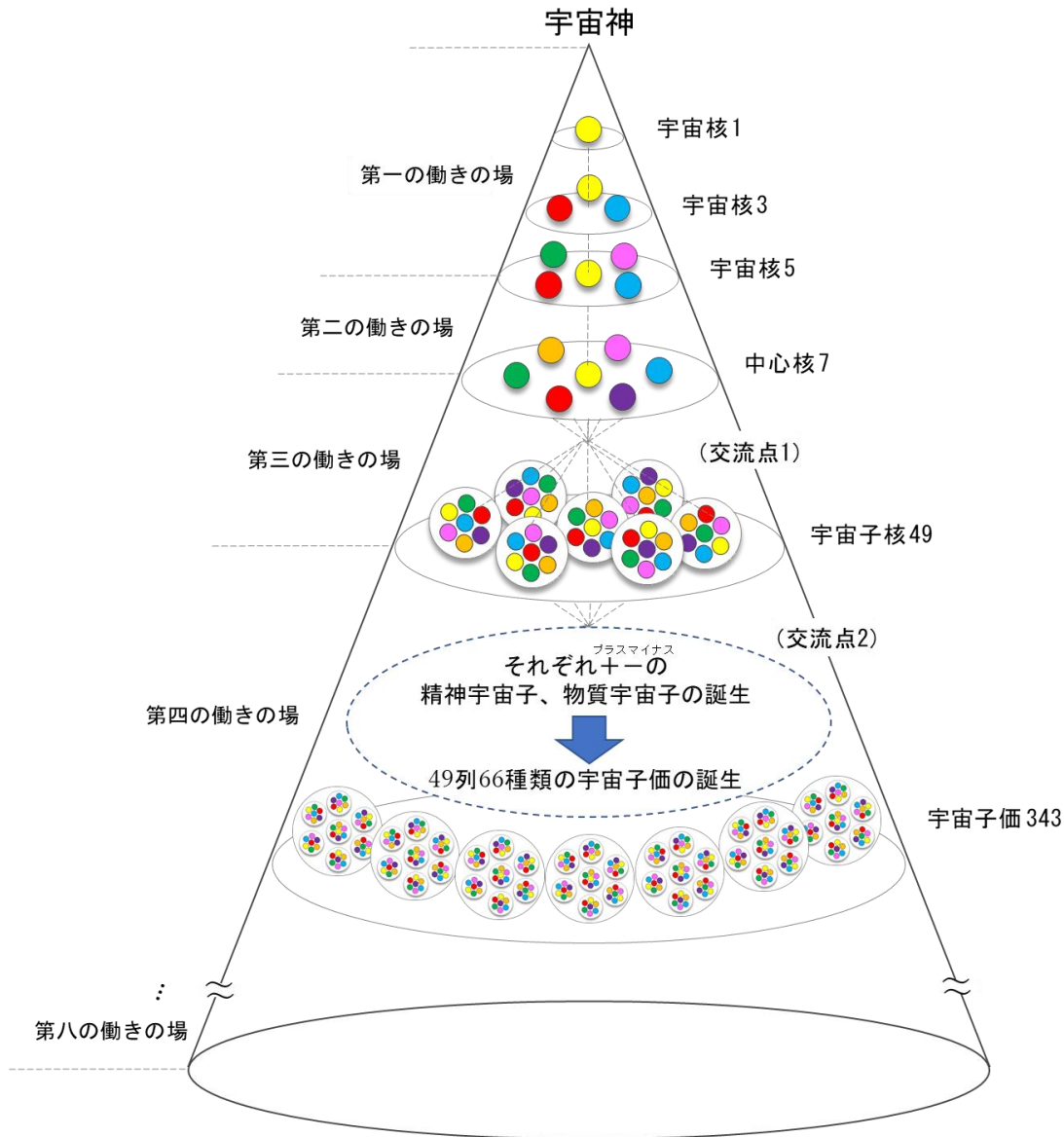
「すべての生命が必要とするものとして、水がある。水は、水素(H)と酸素(O)の化合物である。水素と酸素が一緒になることで、この地上に水(H₂O)という全く新たな物質が生まれる。

同じように、人類にとって必要なのは、宇宙神の大光明エネルギーと肉体エネルギーが神聖復活の印によって一つになること。地上を超えたエネルギーと肉体エネルギーの共鳴現象が起きること、全く新しい、全人類に神聖を思い出させるエネルギーが生まれる。こうして神人たちは、地球のすべての生きとし生けるものを救済して、一体となる」と。

神聖復活の印の各動作は、これまで整理してきた宇宙根源のあり方からみると、宇宙創造を決定する中心的役割を担うものの内、型霊(○△□)に従って、大光明エネルギー(精神宇宙子)を受け止め、肉体エネルギーと共鳴現象をつくるものと言えます。

私たちは、宇宙根源から流れてくる大光明を意識的にイメージして集中して神聖復活の印を組むと、全く新しい、全人類に神聖を思い出させるエネルギーがあふれ出てくると確信できます。それは、太陽の光線を虫眼鏡や反射鏡等でフォーカスすれば、強力な熱源となって紙などのような物を燃やすことができるのと同じ原理なのですから。

宇宙子の誕生と流れのイメージ図



こうして宇宙子は、7×7の乗数で分離・集合を続けてお互い種々と交流しあって、十数段階の交流を経て、現在地球科学で言われている素粒子、つまり陽子とか中間子と電子とかという形になってくる。

宇宙子の誕生と流れ対照図									
宇宙子の流れと配列	働きの場	数霊	型霊	音霊	神名				
大宇宙神 	無限	0	∞	全ての音を包む	大宇宙神 (宇宙心)				
生命宇宙子の元 	第一の働きの場	1	○	ア	① 天之御中主神 (アマノミナタシカミ)				
生命宇宙子の元 物質宇宙子の元 	宇宙核					3	○ △	ア・オ・ウ	② 高御産業日神 (タカミムスヒノカミ) ③ 神産巢日神 (カミムスヒノカミ) ④ 宇摩耜阿毗理日神 (ウマシアヒリノカミ)
生命宇宙子の元 精神宇宙子の元 	宇宙核								5
五つの井戸=五井 	第二の働きの場	7	⬡ 亀甲型		⑥ 国之常立神 (クニノトコシノカミ) ⑦ 豊雲野神 (トヨクモノカミ) ⑧ 独神七柱 (トコシノカミ)				
七色 	中心核								

相原誠二郎氏編集作成